

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	16
1. 理念の共有		3
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		5
4. 理念を実践するための体制		4
5. 人材の育成と支援		3
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		3
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		2
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		7
1. 一人ひとりの把握		2
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との連携		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		15
1. その人らしい暮らしの支援		13
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		41

訪問調査日 調査実施の時間	平成 21年 1月 22日 開始 10時00分 ～ 終了 16時00分
訪問先事業所名 (都道府県)	にいがたケアセンターそよ風 (新潟県)
評価調査員の氏名	氏 名 山崎 由美 氏 名 星野 久美子
事業所側対応者	職 名 センター長 氏 名 飯田 すみい ヒアリングを行った職員数 (5) 人

○項目番号について

外部評価は41項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

評価確定日 平成21年2月23日

[評価実施概要]

事業所番号	1570102663
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	にいがたケアセンターそよ風
所在地 (電話番号)	新潟市西区善久450-1 (電 話) 025-370-1810
評価機関名	特定非営利活動法人 ウェルフェア普及協会
所在地	新潟県三条市東三条1丁目6番14号
訪問調査日	平成21年1月22日

[情報提供票より] (20年11月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 10月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤 22 人, 非常勤 人, 常勤換算 21.5 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建て, 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	62,000 円		その他の経費 (月額)	25,000 円	
敷 金	有				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000 円)		有りの場合 償却の有無	有 (2年償却)	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり 1,400 円 (※1ヶ月 42,000円)				

(4) 利用者の概要 (11月10日現在)

利用者人数		26 名	男性	2 名	女性	24 名
要介護1		7 名		要介護2	4 名	
要介護3		6 名		要介護4	6 名	
要介護5		3 名		要支援2	名	
年齢	平均	83.9 歳		最低	70 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	白根大通病院、藤田内科胃腸科
---------	----------------

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴]

平成15年、地域密着型サービスの先駆けとして、様々な介護福祉事業を全国展開する会社が開設している。地域に根ざした活動を目指し、各事業所の連携や職員の育成体制を構築している。ホームは閑静な新興住宅街に位置し、近隣にはコンビニエンスストアや市民会館・スーパーがあり、利便性に恵まれた環境にある。建物の1階はデイサービス、居宅介護支援事業所とグループホームが1ユニット、2階は2ユニットとなっており、センター全体で連携しサービスを提供している。ホームは施設的な造りの観はあるが、各ユニットは自由に行き来でき、ユニット中央の広いオープンスペースで食事準備やレクリエーションを楽しく実施している。「利用者のために」という理念の下、積極的に地域に働きかけ全職員が笑顔で熱意を持って取り組んでいる事業所である。

[重点項目への取り組み状況]

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
		先回の評価結果は運営推進会議や家族にも報告し、各ユニットや全体会議で話し合い、具体的改善に取り組んでいる。
重点項目	②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
		センター長が説明し、全職員が評価の意義を理解し、一つひとつの項目を話し合い、自己評価を行っている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
		2ヶ月に1回、3ユニットで順番に当番を決め開催している。市の包括支援センター職員や民生委員に加え、当番ユニットの利用者や家族に参加を声かけし、意見をもらう大事な機会としている。ホームの状況報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
		苦情受付窓口を明記し、意見箱も設置しているが、実際には運営推進会議や面会時に直接意見を言われる方が多い。それらは報告書を作成し、話し合い運営に反映させている。トイレの位置がわかりやすいように表示を改善した例がある。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
		毎月の「生き生きサロン」や納涼祭等、ホームを開放した行事は大勢の参加があり、恒例となっている。近隣の市民公民館「絵画サークル」の作品展示の場を提供したり、公民館文化祭に作品を出展している。自治会に加入し、積極的に働きかけているが地域の活動参加には至っていない。更なる交流や情報収集が今後の課題である。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者のために」という理念に沿いその人らしい暮らしを支援するために、事業所全体で取り組んでおり、各ユニットごとに年間目標を立て、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全体会議や朝礼時に話し合いをして意識づけし、いつでも振り返ることができるように各ユニット内に掲げており、理念の共有・実践できるよう取り組んでいる。		
2-2	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の方には、入居の際に説明している。地域の方には、月1回ホームで開催している「生き生きサロン」や運営推進会議等、多様な機会を捉え、理解してもらえようように話し合い取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月1回「生き生きサロン」を開催し、地域の方に参加を呼びかけ交流を図っている。また、市民公民館での文化祭に作品を出展し、地域の行事に積極的に参加している。自治会に加入し積極的に働きかけているが、地域活動の参加には至っていない。	○	利用者が地域と繋がりながら暮らし続けられるよう、事業所が基盤を築いていくことが大切である。回覧板を回してもらうこと等から始め、情報収集し地域の一員として地域活動に参加し、更に交流を深めていくことに期待したい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が評価の意義を説明し、職員会議で話し合い具体的な改善に取り組んでいる。今回の自己評価を通して、業務や利用者との関わり方を再確認する良い機会としている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、3ユニットで順番に当番を決め開催している。当番ユニットの利用者・家族を含めたメンバーで開催している。ホームの状況報告や評価結果について話し合い、サービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加している。市と連携して地域活性のための「生き生きサロン」を開催したり、市の福祉バスを利用して出かけている。何かあれば市の担当者に相談したり、行き来する関係である。		
6-2	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議や内部研修等で学ぶ機会を設けている。また、日頃から虐待について話し合い、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回手紙や明細書・写真付き新聞等を送付している。面会時や必要時電話連絡を行い、暮らしぶりの報告をしている。職員異動については文書を作成し、お知らせしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、受付窓口について明記し外部者へも苦情等を表せるようにしているが、直接意見を伝える方が多い。家族の意見よりトイレの表示を分かりやすく工夫し改善した例がある。		
8-2	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を含め、職員間で何でも言い合える良い関係が出来ている。日常的にセンター内各部署の代表者で、小規模な会議を行っており、全体会議以外にも意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は異動を育成の機会と捉えており、センター内異動で所属の1ユニットのみならず、全ユニット利用者を支援していけるように努力している。代わる場合は、利用者・家族に個々に話をし、引き継ぎを徹底してダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	○マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	各種マニュアルが整備されている。急変時対応マニュアルについては、実情に即し独自のものに見直している。会議や研修で周知徹底に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	センター長は「職員一人ひとりの長所を伸ばした育成」を考慮し、内外問わず研修を受けることを推奨している。職員の段階に応じた年間計画があり、テーマを設けて、定期的に研修を行っている。外部の研修には積極的に参加できるようにシフトを調整して学ぶ機会を確保している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	支社内の相互訪問や情報交換・交流する機会を設けている。県の連絡協議会に加入したり、地域のグループホームと交換訪問を実施したことはあるが、回数は少なく定期的交流やネットワークづくりには至ってない。	○	同業者との交流は、職場内で行き詰っている日頃の悩みの解消や緊急時の連携をスムーズにする等、事業所や地域全体のサービス水準向上のために必要である。積極的に具体的な取り組みを検討し、定期的交流やネットワークづくりを期待したい。
11-2	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は支社内やセンター内で親睦会のための補助をしている。休憩室を設置し、順番に休憩する時間を確保したり、日頃から職員の悩みやストレスを聞く良い関係ができています。また、ストレスの原因と解消法の研修を実施し、ストレス軽減に取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に訪問して本人・家族から情報収集を行ったり、ホームに来てもらい利用者の方と一緒に過ごし、お茶飲みや話をする事で馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に過ごす中で、料理の仕方を教えてもらったり、裁縫を学んだり、楽しみを共有している。利用者から衣服のコーディナーやベッドの滑り止めについて等相談を聞き、一緒に解決することで支え合う関係を築いている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の存在があってこそ、ホームにおいても穏やかに暮らしていくことができると感じており、一緒に本人を支えていく大切さを伝え関係を築いている。事あるごとに相談し、関係の継続に配慮しながら支援している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりと密接に関わり、「どう暮らしたいか」本人・家族より聞き取り、なるべく今までの生活スタイルを変えないように、思いや希望・意向を本人本位に検討している。		
14-2	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の各種シートや独自の基本情報シートを活用し、本人・家族と話をする機会が増えた。一人ひとりの生活歴や暮らし方の把握と情報の共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族にカンファレンス参加を声かけし、欠席の場合は希望を聞き、本人とも話し合い、意見を反映した介護計画を作成している。達成度や具体的実践項目を意識した独自の記録様式を使用し、本人本位の計画作りと評価にも繋げている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の経過記録に評価を記入したり、課題の把握や変化に気づきやすいように工夫し、状態変化時等に家族に意見をもらい、現状に即した新たな計画を作成している。3ヶ月に1回をめやすに見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望に応じ、外出・外泊・買い物・通院・併設デイサービスへの参加等、センター全体の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を確認し、ほとんどの方が協力医に月2回往診してもらっている。協力医とは24時間体制で連携し、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期においては適切な医療を受けられるよう医療機関へ転院となることを、入居時や状態変化時に本人・家族に説明している。ホームの指針が明示されておらず、文書で同意を確認していない。	○	ホームの指針を策定し、対応できる範囲を明確化することが必要である。本人・家族に説明し、話し合い文書で同意を得ることで方針を共有していくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りを傷つけないようさりげない言葉かけや対応に努めている。個人情報についてはマニュアルに沿って対応し、会議で話し合ったり、研修で学ぶ機会を設けプライバシーを確保している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩に出かけたり、一人ひとりのペースや希望を大切に、その方にとってどのように過ごすことが一番良いかを配慮し、メリハリを持って日々を送れるよう柔軟に支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力を活かしながら、食事の一連の作業を一緒に行っている。ランチョンマットを使用したり、職員が食事前に話題を提供し、それについて談笑し合い楽しみなものとなっている。平日昼食は検食職員のみが利用者と同じ食卓を囲んで食事をしている。	○	「食事」の好みや思いを共有したり、咀嚼や摂取傾向・健康状態の把握、日常動作の訓練の場として、暮らしや認知症ケアの中で重要な位置と考え、同じものを一緒に食卓を囲み、楽しく食べる工夫をすすめていくことを期待したい。
22-2	56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	チェック表により排泄パターンを把握している。オムツはできるだけ使用しないように自立に向けた支援を行っている。全体会議の勉強会で「失禁」や「便秘」について学び、気持ちよく排泄できる支援へ繋げている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせ、ほぼ毎日入浴できるよう支援している。入浴剤や仲間同士で入る等、楽しい工夫をしている。「入浴」は職員と一対一で関われ独占できる場として考えている方もおり、関係づくりの大切な場面として職員も取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や洗濯等、本人の生活歴や得意な分野を活かした役割があり、当番を決め能力に合わせた自立支援をしている。畑仕事、たくあん漬けや梅干し作り等、一人ひとりのやりがいを見出し、楽しみながら、一人ひとりが輝いて暮らしていけるよう配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩等、希望に沿って日常的に外出を支援している。利用者・家族の希望で個別の外出に対応したり、外食やドライブ等普段行けないところへの外出も楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを策定し、全体会議で「禁止となる具体的な行為」について話し合い、学ぶ機会を設けている。全職員が正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、ユニット入口、ベランダは施錠せず、1～2階も自由に行き来することができる。会議にて全職員が弊害を理解し、職員間で連携プレーを徹底する等、工夫を重ね鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
26-2	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット・事故報告書を記録し、予防策を検討している。利用者ごとに対応策を話し合い、一人ひとりに応じた事故防止の共有・徹底に努めている。		
26-3	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命講習を定期的に受講し、マニュアルに応じた訓練を行い、周知・徹底に努めている。緊急時の連絡マニュアルを各キッチンに掲示し備えている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署員の指導で消防・避難訓練を地域住民にも協力を依頼し、参加を呼びかけ実施している。昨年大きな停電を経験し、備蓄・災害セットを再確認し準備している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がカロリー・食材等細かく算出して献立作成し、好み・季節・栄養バランスを考慮した食事を提供している。食事量・水分量のチェックをし、一人ひとりの状態に合わせて調整している。お茶を好まない方にはゼリー等で摂取を促している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・ベランダにはプランターを設置し、季節の草花や野菜を育てている。手作りの作品・写真・テーブルクロス等で明るく家庭的な雰囲気に配慮している。ソファやこたつコーナーを設置し、居心地良く過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談し、ベッド・テレビ・椅子等馴染みの物や好みの物を自由に持参している。家族の写真や手作りのプレゼントを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。		